

効果的な活動を実践するためのヒント  
 ～開発効果の議論から振り返る、日本の NGO の活動～  
 <グループディスカッションの進め方について>

◇ 趣旨&目的：

本事業の最終成果物である「手引き」の内容検討に有益なインプットを引き出すこと

◇ 方法：

各3原則についてグループに分かれ、議論を行う

各原則につきマネージメントレベル/実務レベルの2グループ（計6グループ）を設ける

◇ 進行方法：

【全体ファシリによる説明】

【A. 導入】（配布物：模造紙1枚、長ポストイット、プロッキー）

- ・ ・ 1. 8原則を読んだ所感について自由に議論する。
- 2. 原則が実践出来ていると思われる事例/状態を想像し、グループ内で共有する。  
 ⇒ ポストイットに記入して模造紙に貼っていく  
 ハードルを下げるために「想像」としているが、所属団体での具体的事例の共有も大歓迎  
 参加者に「考えてもらうこと」が目的なので、全原則についてアイデアが出なくてもOK
- 3. 自分の団体にとって/日本のNGOにとって既にできている部分、まだまだな部分を自由に議論する

8原則  
 全てについて

【全体ファシリによる説明】

【B. メイン】（追加配布物：“Some suggested objectives”（ツールキット抜粋、邦訳））

- 1. ツールキットで例示されている実践に向けたフェーズを読んでもらう
- 2. 日本の文脈に当てはめた際、どこからどのように始めるのが適切か  
 どんなツールが有効と思われるかについて（特に実務レベルグループ）話し合う

担当の原則  
 について

Ex. 「原則1. 人権と社会的正義の推進」について：

「スタッフがRBAを理解する」の前に「人権そのものについて共通理解をつくる必要がある」なのでは？で

※必要と思われるステップをポストイットに書き出す⇒全体共有⇒順番をつけてみる等、議論の進行方法については各グループにお任せします。

【C. 全体共有】

グループで議論した内容を全体で共有する（各グループ5分程度）

※上記、B+Cを2ラウンド実施します。